

市立病院の展望

新年を迎えるにあたり、市立病院の将来構想をお知らせします。

【当院の将来構想】

運営目標

- ・ 病院施設の整備
- ・ 中和医療圏の要であり続ける

経営目標

- ・ 健全な経営を確保する
- ・ 常勤医 60 名を維持し、スタッフの力量を高める
- ・ 医療機器を整備し最新の医療を提供

診療目標

- ・ 中和の「救急医療」「がん医療」「周産期医療」などの要となる
- ・ 診療科ごとの専門医療を推進する

教育目標

- ・ 人文教育を重んじ、誰もの人権を擁護する
- ・ ガイドラインに基づく治療の標準化
- ・ 病院を挙げ後進を育てる

当院は、中和医療圏の真の中核病院として機能することをめざしています。現在、日本では人口減少、少子高齢化が急速に進行し、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、65歳以上の高齢者が3,500万人、全人口の30%に達すると予測されます。この超高齢化社会に向け、地域医療構想が議論されています。現状の医療体制では、2025年以降、さらに進行する超高齢化社会を乗り切ることができないでしょう。高齢者は、さまざまな合併症を持っています。寝たきりや認知症の人には、医療とともに、介護施設が緊密に連携し、持続的な医療と介護を提供することが重要です。

当院は、ガイドラインに従った最新の標準医療を行うだけでなく、救急医療体制の整備や、在宅医療の支援の強化を図る必要があります。在宅医療機関との連携や、在宅医の協力のもと、高齢の入院患者を在宅に帰すことや、在宅で急変した患者を救急で受入れることは、当院の使命です。さらに、中和医療圏の『病診連携』を進め、地域の診療所からの患者の受入れを積極的に行うことも、当院に課せられた責務と考えます。しかし、当院が単独で対処できる問題ではありません。現在、『病病連携』を強化して、救急医療や在宅医療の支援強化について他の病院と協議しています。最終目標は、本市で発生した救急症例を24時間体制で対応することです。さらに疾患によっては、より高次の医療機関との連携も重要です。さまざまな形の『病病連携』をより緊密に行う必要があります。このように、病院完結型から『病診連携』『病病連携』を基礎とする、地域完結型の医療に変化するための体制作りが大切になります。当院は、中和医療圏で、『地域連携』の要になることをめざしています。

当院が『地域連携』の中心となり、真に中和医療圏の中核病院の役割を担うためには、内科医不足など、多くの課題があります。しかし、院内スタッフと協力し、課題を一つひとつ克服していくことは、決して不可能ではないと考えています。市民の皆さんには、私たちの取り組みを、温かく見守っていただけると幸いです。

[病院長 岡村 隆仁]